CSR報告書2014

株式会社ウチダ

トップメッセージ

Top Message

～棄てない・埋めない・燃やさない ウチダのリサイクル～

「株式会社ウチダ」の創業は1985年、廃棄物の処理といえば埋立・焼却処理が当たり前だった時代です。そのようななか、当社は創業当初から今日に至るまで、【棄てない・埋めない・燃やさない】の信念のもと、徹底的分別・破砕することで、廃棄物の100%再資源化に取り組んで参りました。

株式会社ウチダは循環型社会構築の一翼を担っています

産業廃棄物処理業は、その業自体が環境と密接な関係を持っています。産業廃棄物処理業者として、再資源化を推進し、適正処理を行うことが、直接環境保全活動に結びつきます。

破砕機をはじめとする当社の廃棄物処理施設は、そのほとんどを自社で開発・製作しています。また、施設の維持管理も自ら徹底して行うことで、常に高品質な再資源化製品を提供できる体制を実現いたしました。この仕組みは多くのユーザー様から高い評価をいただくとともに、製品も数多くご愛用いただいており、循環型社会構築の一端を担っていると自負しています。

人・地球にやさしい・・・

工業専用地域に位置し、建築基準法第51条、廃棄物処理法第15条施設である当社は、自然との調和、地域社会との共生を図り、リサイクル技術の研究開発と施設の充実を推進し、リサイクルによる資源の循環的な利用と廃棄物の適正処理を責務としています。

資源循環型社会への貢献こそが私たちの使命であると考えています。

株式会社ウチダでは、コンプライアンス（法令順守、compliance）、CSR（企業の社会的責任、corporate social responsibility）の考え方を企業経営に取り込み、ISO14001認証に基づく環境管理や、労働安全衛生管理、定期的な社員教育、さらには、排出事業者の皆様への関係法令等の情報伝達、ホームページによる情報公開等を積極的に行うことにより、排出事業者、地域の皆様から更に信頼される企業を目指しています。

株式会社ウチダ　代表取締役　内田一三

目　次

Contents

会社概要 3
組織図 4
沿革 5
ハイライト 7
環境とのかかわり １０
地域・社会とのかかわり １９
お客様とのかかわり ２０
社員とのつながり ２２
第三者意見 ２４

牛が喜ぶウチダのオガコ
長者原肉牛団地の牛達

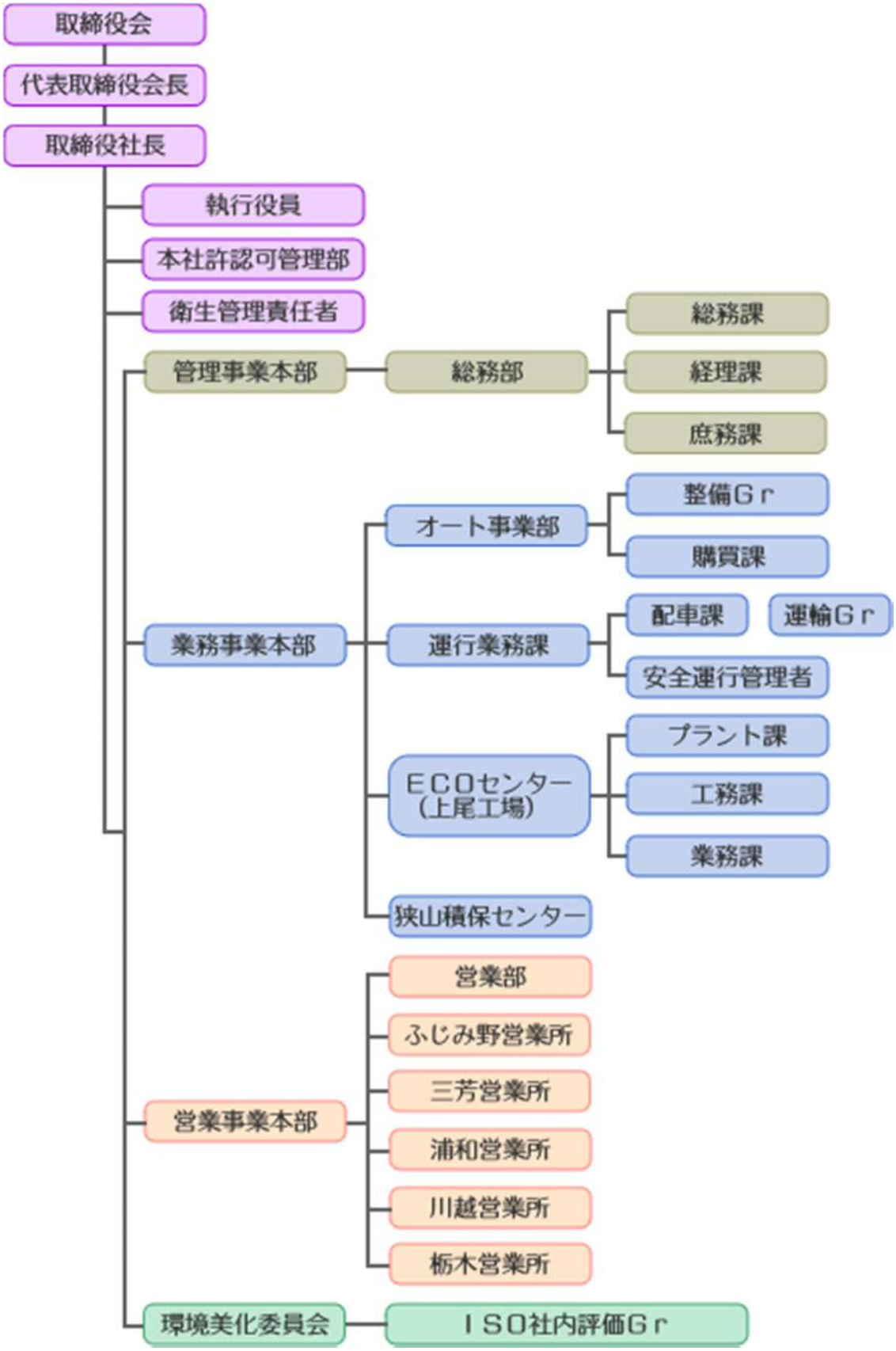
会社概要

Company Guide

商号	株式会社 ウチダ
資本金	5,000万円
会社設立	1985年（昭和60年）2月20日
代表者氏名	代表取締役会長　内田　一二三
役員	取締役社長　内田　千恵子 取締役　日野　弘幸 監査役　高田　登志夫 COO執行役員　内田　朋美
本社	〒356-0034　埼玉県ふじみ野市駒林18番地 TEL：049-263-9777
ふじみ野営業所	〒356-0052　埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10 TEL：049-293-1128　　FAX：049-293-1126
浦和営業所	〒330-0063　埼玉県さいたま市浦和区高砂4-7-11
川越営業所	〒350-1131　埼玉県川越市岸町二丁目18番4号
三芳営業所	〒354-0043　埼玉県入間郡三芳町竹間沢450-17-101
栃木営業所	〒329-3437　栃木県那須郡那須町大字簑沢527-2
狭山積保センター	〒350-1313　埼玉県狭山市上赤坂字妻恋ヶ原589番地1他 ＊塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点
上尾工場	〒362-0066　埼玉県上尾市領家字中井1119-1（上尾領家工業団地内） TEL：048-782-0201（代）　FAX：048-782-0204 ＊塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点、塩ビ管・継手リサイクル契約中間処理会社
栃木工場	〒329-1411　栃木県さくら市鷲宿字大久保2864-1 （建設中）（設置許可　第300-4号、第300-5号）
事業内容	産業廃棄物収集運搬業　営業地域：関東一円 特別管理産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 産業廃棄物再生事業 一般廃棄物収集運搬業 一般建設業　埼玉県知事　許可(般-22)第51123号 土木工事業・とび・土工工事業・石工事業・鋼構造物工事業 舗装工事業・しゅんせつ工事業・水道施設工事業 リサイクル機器設計・製造・販売業 中古自動車販売業
従業員	62名（平成26年3月末現在）
主要取引銀行	埼玉縣信用金庫（上福岡支店）・三菱東京UFJ銀行（新座志木支店） 三井住友銀行（上福岡支店）・武蔵野銀行（上尾支店）
加盟団体	一般社団法人埼玉県環境産業振興協会 一般社団法人東京都産業廃棄物協会 公益社団法人栃木県産業廃棄物協会 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会

組織図

Organization system



沿　革

History

1985.2 有限会社内田商事 設立（埼玉県上福岡市）

'87.10 埼玉県を中心に**産業廃棄物収集運搬事業**を開始　順次営業エリア拡大
営業部設置（埼玉県狭山市）

'92.6 埼玉県富士見市に営業本部を設置
（みずほ台営業所）
狭山営業所は狭山積保センターに

'94.9 埼玉県知事より建設業許可取得

1995.5 「株式会社ウチダ」に社名変更
資本金を5000万円に増額

'97.5 **産業廃棄物中間処分業**を開始
（埼玉県許可取得）

'98.6 廃棄物再生事業者登録取得
（埼玉県）

'98.12 計量証明事業登録取得（埼玉県）

'00.4 **廃棄物破砕処理機**の
自社開発に着手

'04.1 ISO14001認証取得

'04.1～ 特別管理産業廃棄物収集運搬業を
開始

'04.6 電子マニフェストシステム加入

'05.1 一般貨物自動車運送事業
許可取得

'06.12 更生保護事業への貢献がみとめられ、
さいたま保護観察所長より感謝状

'06.1～'07.3 緑のトラスト運動協力企業として
埼玉県知事より感謝状

沿　革

History

'07.3　上尾工場の保管施設を追加

11　狭山積保センターで石綿含有産業廃棄物の積替え保管可能に

2008.12　**上尾工場拡張**

2010.2　**東京都産廃エキスパート認定取得**
（収取運搬業（積替え保管を除く））
2011.12更新認定取得

'10.5　（社）埼玉県産業廃棄物協会より
「優良事業所表彰」を授与される

'11.4　塩化ビニル管・継手協会の
契約中間処理工場に指定される
（受入拠点：上尾工場・狭山積保センター）

2011, 2012　**産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業 優良確認・優良認定を受ける**（埼玉県他）

'12.6　緑のトラスト運動協力企業として埼玉県知事より感謝状
（公社）全国産業廃棄物連合会より
「地方優良事業所表彰」を受ける

'12.10　廃棄物再生事業者登録事業内容の変更（埼玉県）

'13.3　上尾工場の減容施設の廃止、保管施設の追加・廃止・保管面積の拡大

'13.8　上尾市社会福祉協議会より**「感謝状」**を授与される

デジタルタコグラフの全車導入

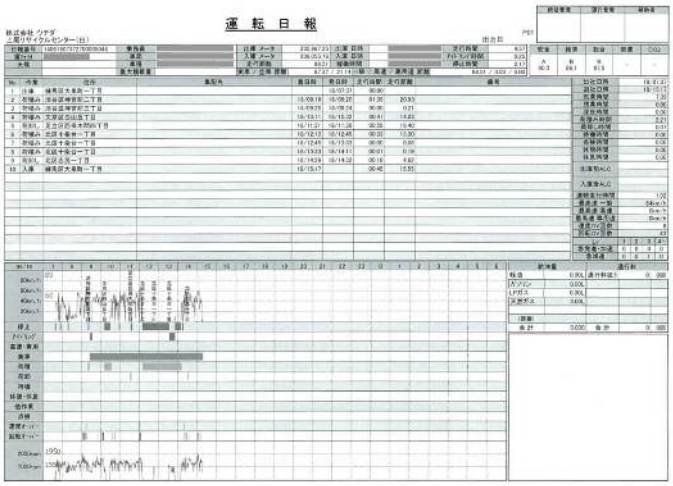
株式会社ウチダでは平成25年10月にデジタルタコグラフを全車に搭載しました。
デジタルタコグラフとは車両の運行にかかる速度・時間等を自動的に記録する運行記録装置です。

導入したデジタルタコグラフは、運行データをリアルタイム通信で事務所に送信。運行管理、ドライバーの安全運転、労務管理をサポートしています。また、運転日報を確認することで、ドライバー自身の安全運転、エコドライブへの意識向上を図っています。

デジタルタコグラフを搭載した車両内部

GPSにより全車両の運行状況を把握

運転日報



ハイライト

Highlights

彩の国ビジネスアリーナ2014に出展

彩の国ビジネスアリーナ2014は、「彩の国埼玉が誇る技術が集結」をスローガンに、中小企業の受注確保・販路開拓、技術力向上等を目的とし、広域的な企業間ネットワーク形成による新たなビジネスチャンス創出の場を提供する展示商談会です。

平成26年1月29日、30日に開催され、株式会社ウチダもリサイクルシステムとゼロ・エミッションへの具体的活動について出展させていただきました。

沢山の方にブースにご来場いただき、弊社の活動をPRさせていただきました。

上尾市社会福祉協議会から感謝状授与

平成25年8月10日、上尾市社会福祉協議会より「感謝状」を授与されました。

感謝状

株式会社 ウチダ 様

あなたが本会に篤志寄附をされたことは社会福祉事業の進展に寄与するところ誠に多大です よってここに深く感謝の意を表します

平成二十五年 八月 十日

社会福祉法人 上尾市社会福祉協議会

会長 島村 穰

「ウチダ」の木くずリサイクル

ウチダ 上尾工場

建設現場

受入・展開

検査・粗選別

優良品を選別

一次破砕機　二次破砕機

自社開発　スイングハンマー式破砕機

保　管

畜産農家へ

＊農協を経由して搬入されます。畜産農家では敷料として利用されます

家畜の糞尿を加え堆肥を生産

水田の肥料に使用

キャベツ畑に使用

畜産農家の言葉

肉牛団地

　ウチダの生産する木くずの敷料（おがこ）は、皮膚に刺さらないので牛や豚がとても喜びます。
　安心して寝そべることができるのでストレスが少なく、肉質の良い牛が育ちます。異物も全く混入していないので、人気が高く牧場間で取り合いをしているほどです。もっとたくさん供給するよう努力をお願いします。

農業生産者の言葉

キャベツ生産者

　ウチダのおが粉を使った敷料に家畜ふんが混ざると、とてもバランスの良い堆肥ができます。他の堆肥と比べてキャベツの生育がとてもよく、１．５倍ほどの大きさに育ち、味がとても良いため、ブランドキャベツとして全量百貨店に販売しています。百貨店でも人気の商品だそうです。

廃棄物取り扱い実績（平成24年度・25年度実績）

廃棄物受入量（m³）

	平成24年度	平成25年度
がれき類	11,228	8,284
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,928	11,060
廃プラスチック類	23,173	21,728
金属くず	4,532	4,439
紙くず	12,759	16,556
木くず	21,118	22,910
繊維くず	30	55
ゴムくず	8	6
合計	**81,776**	**85,038**

選別
破砕
圧縮・梱包
圧縮

リサイクル量（t）

	平成24年度	平成25年度
がれき類	14,711	8,251
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,427	9,845
廃プラスチック類	6,908	6,956
金属くず	4,693	4,059
紙くず	3,828	4,966
木くず	11,615	12,598
繊維くず	4	6
ゴムくず	3	3
合計	**50,189**	**46,684**

総量（t）

	平成24年度	平成25年度
総量	54,227	53,517

最終処分量（t）

	平成24年度	平成25年度
最終処分量	4,038	6,833

リサイクル率（平成24年度・25年度実績）

廃棄物の種類	リサイクル量（t）		用途	リサイクル率（%）	
	平成24年度	平成25年度		平成24年度	平成25年度
木くず	11,615	12,598	畜産資材（敷料）	100	100
紙くず	3,828	4,966	製紙原料	80	80
			熱原料・固形燃料原料	16	6
			畜産資材	4	14
繊維くず	4	6	畜産資材	81	71
			製紙原料・ダスタークロス原料	19	17
がれき類	14,711	8,251	再生砂	89	67
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,427	9,845	再生砂	81	74
			石膏原料	14	15
廃プラスチック類	6,908	6,956	農家資材	1	1
			熱原料	12	12
			プラスチック原料	72	78
金属くず	4,693	4,059	製造原料	92	81
ゴムくず	3	3	製造原料	97	97
合　計	50,189	46,684		93	87

環境とのかかわり

ISO14001の取り組み

株式会社ウチダでは、2004年1月30日、ISO14001認証を取得しました。

認証に基づき、企業活動によって生じる環境への負荷を、常に低減するよう配慮、改善を行っています。

登録概要

社名	株式会社ウチダ
適用規格	BS EN　ISO 14001：2004
登録番号	AJA04/7152
登録年月日	2004年1月30日
再登録年月日	2009年2月11日，2012年2月11日
有効期限	2015年2月11日
登録範囲	廃棄物の収集運搬・処分、破砕機の製造・販売、中古自動車の購入・販売
登録事業所	本社、販売本部（ふじみ野営業所）、Eco. Amusement Park in AGEO

Registration Certificate

This is to certify that the Management Systems of

Uchida Co., Ltd.

have been assessed by AJA Registrars and registered against the requirements of

ISO 14001:2004

Certificate No.: AJA04/7152　Date of Original Registration: 30/01/2004

Re-Registration Due: 11/02/2015　Date of Re-Registration: 11/02/2012

Registration Schedule

SCOPE OF REGISTRATION

Collection, Transport and Intermediate Processing of Industrial Wastes, Design of Intermediate Processing Plant, Design, Manufacture and Sales of Recycling Machinery, and Purchase and Sales of Used Cars

Company Name: Uchida Co., Ltd.

Sites Registered: Head Office: 18, Konmabugawki, Fujimino City, Saitama, Japan
Sales Headquarters: 1-6-10, Niiuma, Fujimino City, Saitama, Japan
ECO. AMUSEMENT PARK IN AGEO
1319-1, Aza Nakai, Ageo City, Saitama, Japan

Standard: ISO 14001:2004

EAC: 39, 18

Date of Re-Registration: 11/02/2012

Re-Registration Due: 11/02/2015

Certificate Number: AJA04/7152

環境理念

株式会社ウチダは産業廃棄物処理業の一員として良質な社会資本の形成を通し、より豊かな生活を実現する為に重要な役割と責任を担っています。当社の行う事業は環境との係わりが深く、その事業活動の中で環境保全に取り組んで行くことは企業としての当然の責務でもあります。このような観点に立って当社は自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、よりよい環境の創造に努め人間にとって真に快適な環境創造の担い手として経済の発展と環境の保全とが持続的に共存する新しい社会の実現を目指します。

基本方針

当社は環境法規制等はもとより、当社が同意した環境に関する外部からの要求事項についてもこれを順守します。

当社は産業廃棄物処理事業活動において、公害防止や汚染予防に常に取り組んでおります。

省資源、省エネルギー、副産物のリサイクル等を含め、汚染回避・低減・管理に積極的に取り組み、環境負荷の低減を図ります。

環境目的・目標の設定・目標達成のための実施計画を策定・実施し、それらの見直しや是正・予防措置を通じ環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

この環境方針は当社内の全社員に周知するほか、社外に開示します 。

株式会社ウチダ　代表取締役　内田一二三

平成25年度活動実績・26年度活動目標

項　目	平成25年度		達成度	平成26年度目標
	目標	実績		
省エネルギーへの取り組み				
ふじみ野事業所				
事業所へのパッシブソーラーハウスの導入（2008年）	維持	維持	―	維持
水道水浄化用浸透膜装置の導入（2008年）	維持	維持	―	維持
太陽光発電装置の導入（2008年）	1,500Kwhの売電	1,651Kwhの売電	◎	1,600Kwhの売電
グリーン調達の推進	購入額の20%	購入額の20%	○	購入額の25%
カーボンオフセット付名刺の導入	導入率10%	導入率10%	○	導入率15%
上尾工場				
重機へのＶＰ燃料の導入	90%	100%	◎	100%維持
エコドライブの徹底	5Km/L	4.1Km/L	△	5Km/L
ドライバーズマニュアル（2009年策定）の周知徹底	継続	継続	―	継続
CO_2排出量	―	1763.3t-CO_2	3.8%増	前年比1%減
環境対応車両の導入（導入比率）	3台/59台	25台/80台	◎	28台/80台
事業所・工場の照明ＬＥＤ化推進	10%/年	3%/年	×	10%/年
エコドライブの推進（ドライブレコーダー、デジタルタコメーターの導入推進）	5台/59台	62台/80台	◎	維持
BEMS（ビル・工場エネルギーマネジメントシステム）導入検討の開始	FSの実施	未実施	×	FSの実施
資源の有効利用の推進				
リサイクル率の向上 現在のリサイクル率 5年後に１００%を目標とする	95%	87%	×	95%
工場施設メンテナンスの内製化による長期使用と効率化の推進	90%	90%	○	95%
収集運搬車両のメンテナンス内製化による長期使用の推進	90%	90%	○	95%
生物多様性の確保				
木くずの再資源化の推進（量の拡大） 敷料⇒堆肥化⇒有機減農薬農法の推進⇒生態系への環境負荷の軽減	前年比５%増	前年比8%増	◎	前年比3%増
水田・芋畑の管理、協力	4.7ｔ収穫	5.1ｔ収穫	◎	5.5ｔ収穫

環境とのかかわり

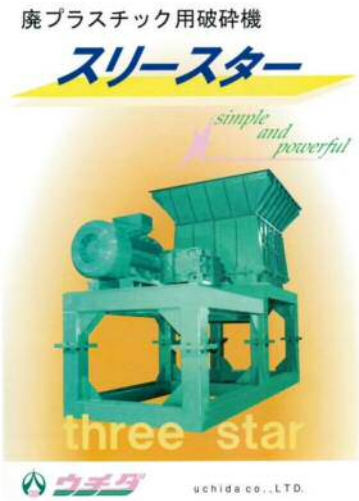
環境展にて

製造部門の実績

株式会社ウチダは産業廃棄物の処理だけではなく、処理機械の開発・製造・販売・維持管理も行っています。

製造装置の一例

「モンスタージュニア」と「ベルトコンベアー」を設置。塩ビ管・継手を破砕してチップを製造。

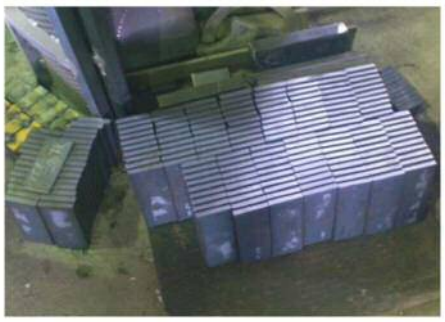
モンスター	スリースター	ユニバーサルクラッシャー
		
用途：木くず、石膏ボード、紙くず、廃畳、硬質プラスチックの破砕 大型大容量処理破砕機。 投入口を特に広く設計。一次破砕機に最適。 特殊構造の投入スロープ床により細かな木くず、石膏片も吸引。 カップリングを介したダイレクトモータードライブ方式を採用。	用途：軟質プラスチック、硬質プラスチック、繊維くず、紙くず、木くずの破砕 軟質、硬質を問わずあらゆるプラスチック製品を剪断破砕。 軟質プラスチック（特にシート系）の処理能力が抜群に向上。 低振動、低騒音。 バリエーション豊かなロストルと固定刃の組み合わせにより、粒度調整が可能。	用途：木くず、硬質プラスチック、石膏ボード、廃畳の破砕 特殊構造の投入口スロープ床により、細かな木くず、石膏も吸収。 コンパクト。

＊いずれも、シンプルな構造の為、頑健。消耗品の交換等保守点検も容易です。

販売実績

納入先	納入機器
北海道旭川市	モンスター・ユースター・振動ふるい機・風力選別機・バーク用破砕機（振動ふるい付）
埼玉県岩槻市	ユースター・磁選機・ベルトコンベアー・ユースター用モーター
沖縄県具志川市	モンスター
愛媛県西条市	モンスター・磁選機・ベルトコンベアー
新潟県新潟市	圧縮梱包機
静岡県浜松市	振動ふるい機

産業廃棄物処理機械の作製とパーツ保管

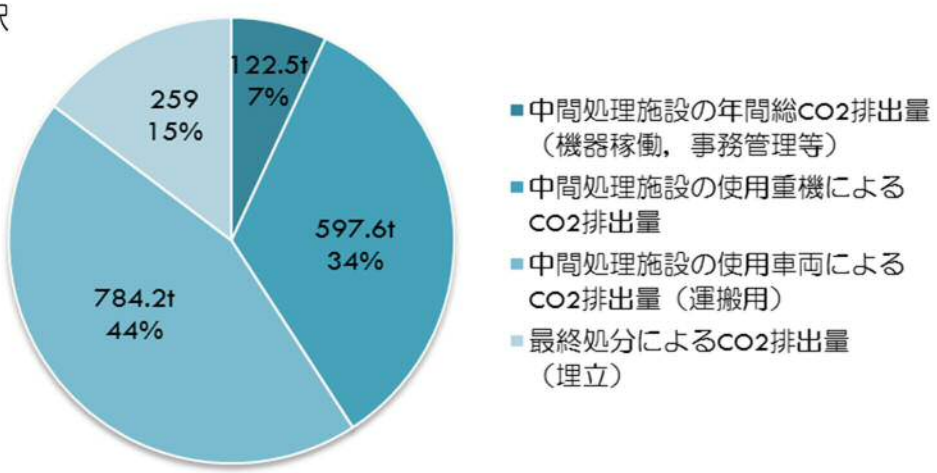


CO_2排出量（平成24年度・平成25年度）

項目		2012年度（平成24年度）	2013年度（平成25年度）
産業廃棄物取扱量（t）		54,227	53,517
CO_2排出量（t-CO_2）	中間処理施設の年間総CO_2排出量（機器稼働，事務管理等）	144.7	122.5
	中間処理施設の使用重機によるCO_2排出量	586.4	597.6
	中間処理施設の使用車両によるCO_2排出量（運搬用）　注）	814.3	784.2
	最終処分によるCO_2排出量（埋立）	153.0	259.0
	合　計	1698.4	1763.3

注）産業廃棄物輸送における運搬車両全体のCO_2排出量である。

年間CO_2排出量内訳
平成25年度



算出：明治大学理工学部　建築材料研究室

平成25年度CO_2排出量の明細

使用電力によるCO_2排出量

CO_2排出量[t-CO_2] =
電力消費量[kWh] × 使用電力会社排出係数
[t-CO_2/kWh]

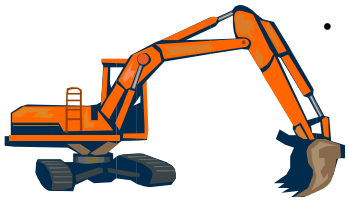
2012年度実績の東京電力排出係数
= 0.000406 t-CO_2/kWh

- 太陽光発電による電力売却分は合計に対し減算

項目	エネルギー消費量	CO_2排出量（t-CO_2）
上尾	289,461kWh/年	117.521
ふじみ野	14,001kWh/年	5.684
太陽光発電（売却）	1,651kWh/年	0.670
合計		122.535

使用重機によるCO_2排出量

CO_2排出量[t-CO_2] =
燃料消費量[kl] × 使用燃料排出量算定係数
[t-CO_2/kl]



- VP燃料は灯油を基剤とし添加剤を加えた燃料のため、排出量算定係数は灯油の係数を使用

項目	エネルギー消費量	排出量算定係数（t-CO_2/kl）	CO_2排出量（t-CO_2）
ガソリン	1.55kl/年	2.32	3.587
軽油	59.52kl/年	2.58	153.554
その他（VP燃料）	176.90kl/年	2.49	440.483
合計			597.624

運搬車両によるCO_2排出量（燃料法）

CO_2排出量[t-CO_2] =
燃料消費量[kl] × 使用燃料排出量算定係数
[t-CO_2/kl]

- 中間処理施設への搬入
  中間処理施設からの搬出
  の合計

項目	エネルギー消費量	排出量算定係数（t-CO_2/kl）	CO_2排出量（t-CO_2）
ガソリン	17.14kl/年	2.32	39.767
軽油	273.97kl/年	2.58	706.853
CNG・LPガス	12.53kl/年	3.00	37.590
合計			784.210

最終処分によるCO_2排出量

CO_2排出量[t-CO_2] =
廃棄物持ち込み量[t] × 廃棄物処理原単位
[t-CO_2/t]

- 中間処理後の焼却、埋立処分（委託処理）について算出
- 25年度の焼却量は0t

項目	廃棄物持ち込み量	廃棄物処理原単位（t-CO_2/t）	CO_2排出量（t-CO_2）
埋立処分量	6833t/年	0.0379	258.971
合計			258.971

算出：明治大学理工学部　建築材料研究室

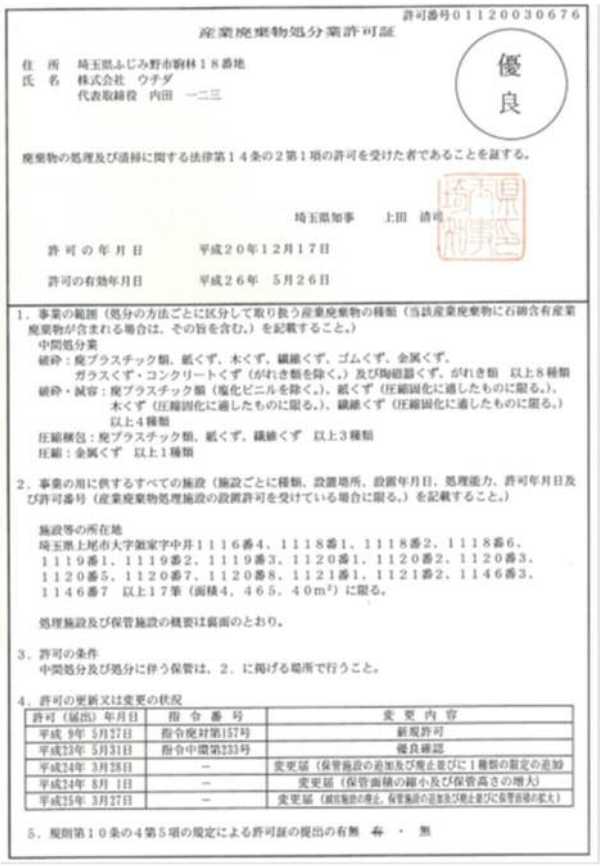
優良確認・認定

優良産廃処理業者認定制度とは、常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。平成22年度の廃棄物処理法改正に基づいて創設されました。

株式会社ウチダでは、廃棄物処理法改正前の旧制度（優良性評価制度）から情報開示等を進め、平成23年5月から順次、埼玉県 産業廃棄物処分業、東京都、埼玉県、群馬県、千葉県、神奈川県の産業廃棄物収集運搬業で優良確認・認定を受けています。

※優良認定は、産業廃棄物処理業の許可更新時に各都道府県・政令市による審査を受け優良基準に適合することの認定を受けるものです。優良確認とは、許可更新時ではない任意の時点で審査、確認を受けるものです。

※東京都については、「産廃エキスパート」認定（収集運搬業 積替え保管を除く）も第1回認定（平成22年2月）から継続して取得しております。（認定番号2-11-A0046）



許可番号01120030676

産業廃棄物処分業許可証

優良

住　所　埼玉県ふじみ野市駒林１８番地
氏　名　株式会社　ウチダ
代表取締役　内田　一二三

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第１４条の２第１項の許可を受けた者であることを証する。

埼玉県知事　上田　清司

許可の年月日　平成２０年１２月１７日
許可の有効年月日　平成２６年　５月２６日

１．事業の範囲（処分の方法ごとに区分して取り扱う産業廃棄物の種類（当該産業廃棄物に石綿含有産業廃棄物が含まれる場合は、その旨を含む。）を記載すること。）
中間処分業
破砕：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く。）及び陶磁器くず、がれき類　以上８種類
破砕・減容：廃プラスチック類（塩化ビニルを除く。）、紙くず（圧縮固化に適したものに限る。）、木くず（圧縮固化に適したものに限る。）、繊維くず（圧縮固化に適したものに限る。）以上４種類
圧縮梱包：廃プラスチック類、紙くず、繊維くず　以上３種類
圧縮：金属くず　以上１種類

２．事業の用に供するすべての施設（施設ごとに種類、設置場所、設置年月日、処理能力、許可年月日及び許可番号（産業廃棄物処理施設の設置許可を受けている場合に限る。）を記載すること。）

施設等の所在地
埼玉県上尾市大字領家字中井１１１６番４、１１１８番１、１１１８番２、１１１８番６、１１１９番１、１１１９番２、１１１９番３、１１２０番１、１１２０番２、１１２０番３、１１２０番５、１１２０番７、１１２０番８、１１２１番１、１１２１番２、１１４６番３、１１４６番７　以上１７筆（面積４，４６５．４０m²）に限る。

処理施設及び保管施設の概要は裏面のとおり。

３．許可の条件
中間処分及び処分に伴う保管は、２．に掲げる場所で行うこと。

４．許可の更新又は変更の状況

許可（届出）年月日	指令番号	変更内容
平成 9年 5月27日	指令廃対第157号	新規許可
平成23年 5月31日	指令中環第233号	優良確認
平成24年 3月28日	－	変更届（保管施設の追加及び廃止並びに１種類の限定の追加
平成24年 8月 1日	－	変更届（保管面積の縮小及び保管高さの増大）
平成25年 3月27日	－	変更届（減容施設の廃止、保管施設の追加及び廃止並びに保管面積の拡大）

５．規則第１０条の４第５項の規定による許可証の提出の有無　有　・　無

産業廃棄物収集運搬業許可証

優良

埼玉県知事　黒岩祐治

産業廃棄物収集運搬業許可証

優良

東京都知事　石原慎太郎

認定番号:2-11-A0046

東京都

産業廃棄物収集運搬業許可証

優良

千葉県知事　鈴木栄一

産業廃棄物収集運搬業許可証

優良

群馬県知事　大澤正明

各種試験結果報告

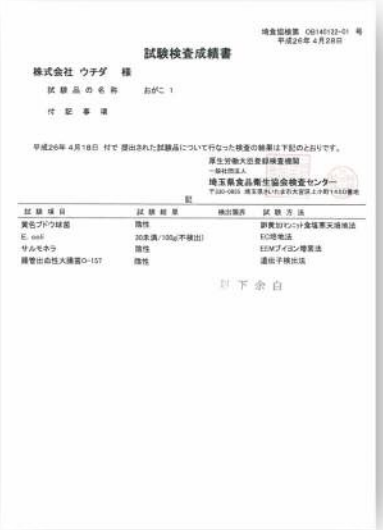
試験・分析の内容	試験実施日	試験・分析の結果
混合廃棄物（中間処理破砕物）の放射性セシウム濃度試験	平成26年3月25日	放射性セシウムC_S-134　12Bq/kg 放射性セシウムC_S-137　30Bq/kg
混合廃棄物（中間処理破砕物）の熱しゃく減量計量	平成26年3月17日	4.23%
おがこの肥料分析	平成19年3月2日	クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル　いずれも不検出
おがこの食品衛生検査	平成26年4月18日	黄色ブドウ球菌　陰性 E.Coli　30未満/100g（不検出） サルモネラ　陰性 腸管出血性大腸菌O-157　陰性

混合廃棄物（中間処理破砕物）の
放射性セシウム濃度試験

混合廃棄物（中間処理破砕物）の
熱しゃく減量計量

おがこの肥料分析

おがこの食品衛生検査



地域・社会とのかかわり

地域農業支援

さつまいもの収穫作業

稲刈り

地域清掃活動

平成25年4月20日、（一社）東京都産業廃棄物協会主催のアースデイ・クリーンアップでの一斉清掃に参加しました。

自転車のまち“あげお”スマート・サイクル☆フェスタへの協賛

株式会社ウチダの中間処理工場がある埼玉県上尾市は、ブリヂストンサイクル本社、上尾サイクリングロード、榎本牧場、荒川沿いの豊かな自然環境など自転車にまつわる地域資源を有することを生かし、「自転車のまちづくり」に産学官と市民が一体となって取り組んでいます。

平成26年3月8日、ファミリーで楽しめる自転車イベント「自転車のまち“あげお”スマート・サイクル☆フェスタ」が開催され、株式会社ウチダではこの事業に協賛しました。

お客様とのかかわり

お客様向け勉強会

株式会社ウチダではお客様のご要望に応じて、現場監督や作業者への現場分別指導や、排出事業者として順守しなければならない法規制等の内容についての勉強会を行っています。

平成25年7月9日実施　排出事業者対象の勉強会の様子

工場見学会

株式会社ウチダでは、お客様である廃棄物の排出事業者の皆様をはじめ、広く一般に、随時処理施設の見学を受け入れています。

排出事業者の皆様には、現場で分別された廃棄物が処理される様子や、自社開発のリサイクル機器の性能、工場での環境配慮の実際をご確認頂いております。

平成25年7月18日実施
排出事業者による見学の様子

平成25年5月20日実施
大学による見学の様子

平成26年2月20日実施
環境森林事務所による見学の様子

お客様とのかかわり

「ふるい下残渣の再資源化に向けた調査事業」への協力

早稲田大学重点領域研究機構　循環型環境経済共創システム研究所　グリーンロジスティクス研究会が中心となって実施した、平成25年度国土交通省　住宅・建築関連先導技術開発助成事業「木造家屋の解体廃棄物の再資源化に関する技術開発」に協力しました。

この技術開発事業は、木造家屋解体工事の際に発生する廃棄物の中でも、従来は再資源化が困難であるとされた「ふるい下残渣（床浚い残渣）」の再資源化の可能性を探る事業で、木造家屋解体廃棄物の全量再資源化を目標としています。

当社の目標とも重なる事業ですので、実現に向けた取り組みを期待しています。

別紙様式第11

平成25年度住宅・建築関連先導技術開発助成事業費補助金技術開発報告書

1．技術開発課題名
木造家屋解体廃棄物（瓦上屋・ガラス陶器類くず・床浚い残渣）の再資源化に関する技術開発

2．技術開発期間
平成25年度

3．事業主体
早稲田大学、株式会社早稲田環境研究所、太平洋セメント株式会社、大和ハウス工業株式会社、積水ハウス株式会社、旭化成ホームズ株式会社、新利根機株式会社、合同会社リバーエコシステム研究所

4．今年度の技術開発の成果
建設廃棄物の中において発生量が多くリサイクルが進んでいない廃棄物として「ガラスくず、陶器類くず及びコンクリートくず」及び「床浚い残渣（泥状土及び管理型混合廃棄物）」がある。これらはその性状が不安定である等の理由により、現状ではリサイクル方法が確立されていない。特に木造家屋の解体工事において発生するそれら対象廃棄物の全国排出量は合計で年間104万トン（平成20年度）に達する。

床浚い残渣（26万t/年）は浚渫のため、中間処理施設の選別ラインに投入されても90%以上は「ふるい下残渣（25万t/年）」となり、そのほとんどが埋立処分されている。本技術事業では、ガラス・陶器類くずに加え「ふるい下残渣」を対象廃棄物として、セメント原料化による「リサイクル方法」を確立するとともに、安定的な社会インフラとして機能させるための最適配置の在り方、及び広域処理システムの構築をも視野に入れたコンソーシアム等のシステム構築を目指す。

表1　対象廃棄物の発生量と再資源化率

	年間発生量（単位）	再資源化率（目標）
木造家屋解体廃棄物	25万トン	65%
うちガラス・コンクリート及び陶器類くず	70万トン	0-10%
うち産業廃棄物（床浚い残渣）	26万トン	0-10%

（1）セメント原料化に係る技術開発

ガラス・陶器類くずは2013年3月の実証試験によりセメント原料化が可能であることが確認されている。しかし、ふるい下残渣は、廃石膏ボード中塩化ビニル等が混入していることから三酸化硫黄や塩素が高いことが起因され、セメント原料化に伴う設備管理の強化・手間を要するとする懸念がある。

本年度は、実証試験の主要中間処理施設を対象に、ふるい下残渣の成分調査を行うことでセメント資源化の課題を明らかにするとともに、セメント業界での使用可能数量を試算した。

① ふるい下残渣の組成調査

7.1 ふるい下残渣サンプルを採取し成分分析を行った。いずれの試料も土成分が土壌（2mm以下粒径）であり、少量の木片、紙屑やプラスチック・ビニール等などの可燃物を含む混合物であった。無機成分は SiO2 濃度 7.5～20.1%、Al2O3 濃度 1.6～12.1%、CaO 濃度 3.6～32.9%のほか、石膏ボード由来と推定される SO3 濃度 1.2～24.2%と変動が大きかった。またその他微量分析に Cl 濃度 776～5,200ppm、F 濃度 10～12,030ppm といった極端に高くなる。其極微量濃度であった。

1

表2　ふるい下残渣　主要成分一覧

	SiO2	Al2O3	Fe2O3	CaO	MgO	SO3	Na2O	K2O	TiO2
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1	29.2	9.0	4.4	31.1	1.5	9.7	1.1	1.0	0.6
5	11.8	4.4	2.1	9.1	0.5	7.7	0.7	0.4	0.2
7	7.5	1.6	0.2	3.5	0.5	1.2	0.4	0.3	0.2
17	32.4	18.1	9.6	32.9	2.3	24.2	4.0	1.7	1.0

表3　ふるい下残渣　微量成分一覧

	P2O5	MnO	Cl	F	Cr	Ni	Cu	Zn
	%	%	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm
1	0.22	0.11	1,742	917	11	54	124	449
5	0.10	0.01	1,984	2,208	46	19	88	197
7	0.11	0.01	720	10	40	16	30	220
17	0.47	0.19	9,300	12,030	250	110	440	1,100

化可能数量試算

Al_2O_3、CaO はセメントの主要成分と同じであり、その成分変動に対応した再資源化に対してペナルティは与えられない。しかし、SO_3 は原料の接着メンタルの原因となるため、過度変動に注意を要する成分であり、セメント原料化に支障となるオーダーではなかったことから、下残渣ふるい下残渣のセメント再資源化可能な数量を試算した。SO3 濃度が成分変動すると、ふるい下残渣の発生量25万トンのうち、全国のセメント工場で最大限に受入することが可能と推計される。

ヒアリング調査をしたところ、セメント製造に影響を与えないために、0.02%程度に抑制する必要があり、ふるい下残渣の成分変動が大きいことから、実用化に向けては調査の一層の深堀り検討が必要となる。

	平均	最大
ヒビ入り廃棄物は下残渣量	24万トン	25万トン
廃ボードを含む廃棄物（SO3あり）がすべてふるい下残渣になるとした場合	16.4万トン	17万トン

図1　セメント資源化可能数量

の調査

ボード（76万t/年）、ふるい下残渣（25万t/年）の合計101万t/年となる。

の60%（60万トン/年：推計値）を占める。一方で対象廃棄物の受入量やスル潜などの管理面からも地方に立地するため、60万トンの対象廃棄物を再資源化するためには、陸上線を前提とした混合廃棄物の運用方法を、廃棄物処理システムを構築する必要がある。

既に説明したようリサイクルされている量を差引し、首都圏からの廃棄物をターゲットとして、首都圏廃棄物処理システムの実証試験を行った。

廃棄物の発生量調査

対象廃棄物の中間処理施設3社に調査協力を依頼し、実績調査を実施した。実績調査の1つとして、実績量を調査した。各社の原料量を推測し推測量の差から、ふるい下残渣の量を推計した。

2

対象		ふるい下残渣発生量(t/月)
現場	A社	3600
現場	B社	0
現場	C社	20
	D社	30
現場	E社	1200
現場	F社	30
現場	G社	600
	H社	20

自動化の提案。

特は、SO_3 等の濃度管理を徹底できれば、十分にセメント工場で再資源化リサイクルポートを構築することで、管理型処分場とは比べ十分に採算性のあるリサイクルが可能であることが確認できた。今日では、下記の3点があげられる。

1. ふるい下残渣のような可燃物を含む混合廃棄物は、セメント工場の既存ラインの原料工程の中に入れることが想定される。そのため、本来セメントキルンへ投入し、焼成・焼成物を作る反応がある。
2. 各社の選別工程の進化により、ふるい下残渣の SO3 濃度は大きく異なる。首都圏の廃棄物を前に組み替える機能の向上、廃棄物処理化を立地場所や地域の廃棄物の多寡に応じた方法の検討が必要である。
3. 廃棄物を行った「ふるい下残渣サンプル」の中には、燃えやすい成分が多く含まれていた。つまり、管理型処分場等の中間処理施設の高効率の生産されていた。つまり、管理型処分場がリサイクル利用されているケースがあることが報告された。

上記のリサイクル推進のためには、中間処理施設に対して「ふるい下残渣」を指導するとともに、セメント原料化事業のコストが廃棄物処理費用を下回る等、リサイクル事業としていく必要がある。

3

社員とのつながり

社内勉強会

株式会社ウチダでは、産業廃棄物処理業をはじめとする各分野で、社員ひとりひとりがプロフェッショナルとして通用する人材に育つよう、資格取得の奨励はもとより、定期的に環境関連法令等の社内勉強会を開催したり、外部講習会へ積極的に参加させるなどして、社員教育、人材育成に力を入れています。

＜平成25年度社内勉強会実施状況＞

日　付	内　容
平成25年5月25日	⌘　行政処分の指針について１／２
平成25年7月13日	⌘　行政処分の指針について２／２
平成25年8月26日	⌘　廃石膏ボードリサイクルについて
平成25年9月21日	⌘　建築物石綿含有建材調査者について ⌘　許可更新期限の到来を待たずして許可の更新を行う場合の優良認定の付与について ⌘　行政処分の事例
平成25年10月26日	⌘　建設廃棄物の適正処理について１／３
平成25年11月30日	⌘　建設廃棄物の適正処理について2／3
平成26年1月25日	⌘　建設廃棄物の適正処理について3／3
平成26年2月22日	⌘　産業廃棄物を再生利用又はエネルギー源として利用する場合の廃棄物該当性について

＜平成25年度外部講習会受講状況＞

修了日	講習会の名称	実施者	了証番号・人数
平成25年7月11日	し尿・汚泥再生処理施設技術管理士	一般財団法人 日本環境衛生センター	認定番号038065 1名
平成26年2月4日	東京都23区（特別区）指定一般廃棄物処理業許可更新講習	一般財団法人 日本環境衛生センター	第13110号 1名
平成26年2月27日	一般廃棄物実務管理者講習	一般財団法人 日本環境衛生センター	第13113047号 1名

安全衛生の取り組み

株式会社ウチダでは、日々安全を念頭におきながら企業活動を行っていくため、安全衛生教育や労働安全衛生についての委員会活動も行っています。

平成25年4月15日実施
ドライバー教育（交通安全講習）

平成25年8月7日実施
ドライバー教育（交通安全講習）

事故防止のため重機と人の動線を区画する
パイロンとバーの設置、RL2マスク装着

作業手順書

場内安全標識

安全帯の使用

第三者意見

１．環境負荷低減のための施策

産業廃棄物処理業はその本業を推進することで環境負荷低減を追求できる時代にマッチした業種の一つです。そのためには積極的な環境負荷低減のための施策に取り組む必要のある業種だとも言えます。この観点から株式会社ウチダの取り組みを見てみると次の２点の突出した特徴があります。

① リサイクル率が極めて高いこと

② 確実なリサイクル先を確保していること

ウチダにおける木くずのリサイクルはその典型で、自社製造の破砕機で破砕した木くずが牧場において敷料として使用された後に農作物の肥料となり自然に帰るという、きれいなリサイクルループを描いています。

ウチダでは、プラント製造事業者の強みを活かして施設のメンテナンスの殆どを自社で行うことにより、速やかで確実な補修を実現させています。また、装置の改良についても積極的に取り組んでおり、高い施設稼働率に加え安定した品質のリサイクル原料製造を実現しています。この企業姿勢こそが、高レベルのリサイクル率を実現させた原動力となっているのはいうまでもないことです。

２．更なる高みを目指せ

ウチダは極めて熱心に環境問題に取り組んではいるものの、一方で取り組みの遅れている分野もあります。収集運搬車輌の燃費対策及び中間処理施設全体のエネルギー削減施策がそれにあたります。デジタルタコグラフ導入を一気に行うなど積極的な取り組みを進められていますが、その活用については今後の課題であるといえます。また、昨年度も目標に掲げていた「ＢＥＭＳ」についても取り組みが若干遅れているようです。

リサイクル率の更なる向上を目指していることについては、特に評価のできる点です。残念ながら前年度より若干リサイクル率が低下してしまいました。このレベルのリサイクル率を維持し続けることは大変な困難を伴うものですが、ポテンシャルの高い会社であるからこそ、今後更にこの分野への取り組み強化を進め、「オンリーワン企業」の評価確立を目指していただきたいと思います。

早稲田大学　環境総合研究センター
招聘研究員　上川路　宏

ご意見をいただいて

昨年度に引き続いて、上川路様には大変貴重なご意見をいただき、誠に有難うございます。

ご指摘いただいた「車輌の燃費対策・処理施設のエネルギー削減施策」につきましては、全車両へのデジタルタコグラフの導入により昨年度に比べCO_2排出量が減少しました。

とはいえ、車両の燃費は全体の年間CO_2排出量の4割超でありますので、今後も更なる燃費低減に努めていきたいと思います。その為には、デジタルタコグラフ活用したエコドライブの実施をドライバーに周知徹底していきます。

全体のCO_2排出量は、最終処分量の増加に伴って昨年度に比べ増えてしまいました。再資源化率の向上を目指すことによってCO_2排出量の削減も実現していきたいと思います。

また、ＢＥＭＳ・ＦＥＭＳ導入を推進し、処理施設のエネルギー使用量削減やエネルギー関連設備の制御により一層力を入れていく所存です。

上川路様から、ウチダの環境負荷低減のための施策についてご評価いただきました。

今後とも「棄てない・埋めない・燃やさない」の信念のもと、100%再資源化を目標に取り組んでまいります。

株式会社ウチダ　ＣＳＲ実行委員長　内田 朋美

営業本部
（ふじみ野営業所）
〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10
TEL：049-293-1128 FAX：049-293-1126

ECO.AMUSEMENT PARK IN AGEO（上尾工場）
〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1
TEL：048-782-0201 FAX：048-782-0204

E-mail: e-eco-uchida@bh.wakwak.com